

精神病質的情態に対する Chlorpromazin 療法

東京女子医科大学精神神経学教室 (主任 千谷七郎教授)

末 田 田 鶴 子
スエ タ タ ヅ コ

(受付 昭和30年12月1日)

序

吾々の教室でも最近数例の精神病質的情態に対して Chlorpromazin 療法を行つて、多少の知見を得たので其の経験例に就いて報告する。

此処で精神病質的情態と言うのは Bumke の Psychopathische Zustände, Einstellungen, 及び Entwicklungen を包括するもので、その Anlagen や基礎疾患は様々で有り得る事も亦 Bumke 等と見解を同じくするものである。此の事に就いては此の報告の終りに又触れる事にする。

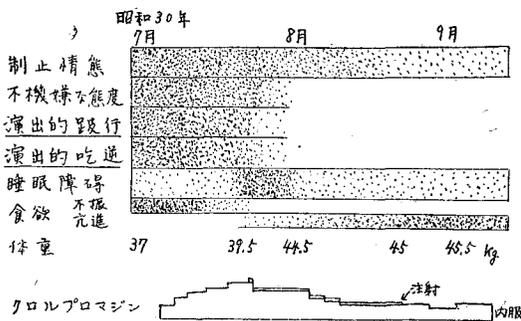
外国でもかかる観点での症例報告は未だ乏しく、吾々の報告は此の薬物の効果の様相に就いて有力な一つの照明を投ずるものと想うものである。

症 例

第一表

症例1 30才, 女, 昭和26年6月入院。

既往の治療, 持続睡眠, 電撃, DOCA-V.C.



症例 I 30才, 未婚女性, 看護婦。〔第一表〕

昭和26年5月から睡眠障碍, 食欲不振, 体重減少, 疲労し易い等の症状が現れ, 同年6月末には母親の危篤等を契機として失失, 失歩を伴う苦悶錯乱情態を呈し当科を訪れ, 鬱病の診断の下に入院した。其の後各種の治療を4年間に亘つて行つたが, 途中縫針を呑み

込んで自殺を計つた事もあつたが, 最近2年間位は病像の変化の乏しい中等度の抑鬱の停頓情態を示していた。

本年7月 Chlorpromazin 療法を始める頃は, 早朝起き出ししては身の廻りを整え, 他人達が起きる頃には布団にもぐり込み, 殆んど終日黙つたま床に就いていて, 話しかけられれば蚊の鳴く様な声の返答で, もどかしくなる程の緩慢な動作をする様な, 重い制止情態 (Hemmung) の Pose であつた。その反面何か気に入らぬ事があると, ぶつぶつ不平を呟いたり屁理屈をこねて反抗的に反駁したり, 物を投げつけたりする運動暴発が認められた。

又特徴的な事は, 廊下を歩く時に膝をギクッと折つて今にも転びさうになる所を, 次の瞬間身体を伸び上げさせながら両手で平衡を取るかの様に振廻して歩くという奇妙な歩き方で, これは誰も見ていない様な所では現れず, そういう場所では単に身体の支持力が抜けてしまったという感じの弱々しい, 普通の鬱病患者に多い歩き方であつた。此れと同様に肩と胸或は上半身全体を屈伸させる吃逆様の発作は, 新入院者のあつた時や医師の回診等により誘発される事が多く, これはこの患者が何時も訴える胸内苦悶の演出誇張を想わせるもので, 病像全体としては hystero-melanchorischer Zustand と見られるものであつた。

この情態に対し内服次いで注射を併用した Chlorpromazin 療法を行い, 不機嫌な態度, 演化的跛行及び吃逆を消失せしめる事が出来, 又食欲亢進の結果身体的一般状態の好転と共に Hemmung が軽快し, 動作は活潑に, 言葉は明瞭となり一見見違える程の生き生きとした表情になり, 且睡眠障碍も幾らか軽快した。しかし服薬中止後 Hemmung が比較的早く後戻りしたのは残念な事であつた。

要するに此の症例では Chlorpromazin は演出

第二表

症例(外来)	基礎疾患の発病	既往の治療(診断)	治療開始前の症状	使用法	効果	副作用
2 39才 男	1年半前 (鬱病?)	内科、外科的に 異常なし	疼痛の訴え } 誇張的 歩行困難 } 苦悶状顔貌 } 睡眠障碍 }	1日 75mg 27日間 計 2.025mg	全症状の軽快 ↓ 治癒	(-)
3 51才 女	3年来 鬱病の消長	電撃療法	思考、作業の制止 取越苦勞、心氣的 不眠、頸肩の凝り 吃逆(演出的)	1日 100mg 13日間 計 1.300mg	吃逆の消失 (電撃併用) ↓ 軽快	(-)
4 23才 男	4年来 鬱病の消長	4回入院 電撃、持続睡眠 DOCA-V.C. 精神分析	軽い思考作業の制止 不潔恐怖 予期不安	1日 37.5~ 187.5mg (不定期的に)	自覚的に	動悸 眩暈
5 50才 男	23才頃から 鬱病期の繰返し	6回入院 電撃、持続睡眠 DOCA-V.C. インシュリンショック	強迫症状 睡眠障碍	1日 37.5~ 112.5mg (不定期的に)	しのぎ易い	(-)

的傾向には効果が認められたが、基礎疾患である鬱病の基本症状 (Hemmung や睡眠障碍) に対しては或程度の一時的効果しか得られなかつた様に想われる。

症例Ⅱ 39才, 男。〔以下第二表〕

1年半位前から腰痛、背痛及胃脘痙攣様の疼痛等を主訴とし、胃潰瘍ではないかと考え3カ所の病院に入院して検査を受けたが、内科的、整形外科的に異常を認められず、最近苦悶焦躁の態度が目立つて来て或る外科医からノイローゼではないかと言われ当科に連れて来られたものである。既往歴及び問診によつてこの痛みは鬱病時の身体的反映である軀筋の凝りによるものも一部は有る様に想われたが、その或る程度の痛みや歩行困難が更に演化的態度で誇張されて顕著な苦悶焦躁の精神不安情態を呈し、それ故に亦多くの医師に忌避されていたものと想われる程のものであつた。

症例Ⅲ 51才, 女。

3年来明らかな鬱病の Phase があり本年4月当科を訪れたが、電撃療法を嫌がり眠剤のみを使用していた。所が9月2日に10日程前から始つた吃逆がどうしても止らず夜は一睡も出来ない程だといつて来院したが、この吃逆は大袈婆な身振りを伴い訴えを述べる間は間遠で程度も軽いという演化的傾向の大なるものであつた。

この症例Ⅱ, Ⅲに対して Chlorpromazin は有効に作用し、殊に症例Ⅱに於いては誇張的、演化的態度の消失につれて執拗に患者を苦しめた痛みも薄紙をはぐ様に軽快して行つたという事は注目して値すると想われる。症例Ⅲは治療開始後3日目に吃逆は完全に止つたが、其の以前から続いてい

た鬱病の症状は不変で、此の回復の為には電撃療法を用いざるを得なかつた。

症例Ⅳ 23才, 男。

不潔恐怖を前景とする鬱病が昭和27年以来繰り返えし、毎年梅雨時に強くなり其の都度2~3の病院に入院して各種の治療を受けたが、反つて電撃療法等を恐れ病院を嫌う様になるばかりであつた。現在でもひどい時は汚くて汚くて身動きも出来ないや部屋の隅にしがみ込んだり、外出すると汚いものが付きそうや外出も出来ない等という状態である。

症例Ⅴ 50才, 男。

何回も入院治療を受けた事のある強迫症状を前景に示す鬱病患者であるが、現在鬱病の回復期にありながら尙「仕事をすると確かめずにはいられない」という強迫観念に悩まされている。

症例Ⅳ, Ⅴ共不規則な使用法をしているが、「薬をのんでいれば自覚的に苦しみが少ない」「楽に過せる」という程度の効果を両者共に認める事が出来た。

尙副作用は治療第1日から 187.5 mg を使用した症例Ⅳに動悸、眩暈が認められた外、錐体外路系の諸症状はどの例にも認められなかつた。これは少量、短期間の使用であつた為と想われる。

結 び

以上精神病質的情態を示した入院患者1名、外来患者4名に Chlorpromazin 療法を行い、この情態に関する限り凡ての患者に好影響を与える事が出来た。吾々が経験した症例の基礎疾患は凡て鬱病であつた事は偶然ではあるが、此処に取り上げた病像は鬱病期の個体的異変を基礎にして諸

環境との関係に於いて対象感情的な反応としての二次的加工として現われたヒステリー情態，強迫症状群を有つたものである。Ditfurth は軽躁体質人に現われた精神病質的情態として2例の妄想的發展例に対する好結果を報告し，其の他の所見と綜合して「Chlorpromazin は内因性精神病に於いては対象感情的に誘發されている限りの凡ての二次的附加症状を明らかに除去する事が出来る」と述べている。吾々は鬱病時に於けるヒステ

リー情態，強迫症状群の例によつて此れと一致する所見を得たのみならず，吾々の教室の鬱病に対する軸症状と辺縁症状との見解を一層確認する所見を得たものと言ひ得ると想ふものである。

使用法としては外国でも割合少量用いられ，吾々の經驗でも比較的少量，短期間の使用で効果をあげる事が出来る様に想われる。

参考文献

南沢論文に一括する。